

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(5月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『ぼくって、ステキ?』

ファン・インチャン 文/イ・ミョンエ 絵/

おおはたけ きよみ 訳/ 光村教育図書

韓国の絵本 対象：小学生低学年からから高齢者まで



内容のご紹介

桜前線も北上し、5月に入り北海道の札幌から根室が5月中旬頃に満開になり、日本列島の今年の桜前線が終了します。本町の戸津辺の桜も“みちのくの春告げ桜と呼ばれ、東北地方で一番先に咲く桜です。多くの人に愛され、今年も2万2千人近くの人達が訪れました。

今月は、韓国の絵本を初めてご紹介いたします。作者は、ファン・インチャンさんの“ぼくって、ステキ?”です。

ファンさんの小学校時代の思い出を絵本にしたかも知れません。校庭の桜が満開の季節です。教室の隣の女の子から“ステキ”と声をかけられて、男の子の物語が始まります。女の子にほのかな思いを抱いて、自分を発見する男の子が愛しく思います。

作者の生まれが安養(アンヤン)市ですから、ソウル市に近いです。桜が満開なるのも4月10日頃で、矢祭町と同じ時期です。男の子も、この桜を見て、「ステキなものを見ると、気分が良いことに、はじめて気づいた。」ラストシーンに感動します。

皆様も、この連休にステキなことに出会ってください。

授業中、隣の席の女子が「すてき」と、つぶやいた。え、それってぼくのこと!?言われてみれば、ぼくってけっこうステキかも?でも、ステキって、どういうことだろう...?思春期一歩手前の男子の気持ちを生き生きと描く。小学校の中、高学年は、自分の外見を気にしたり、異性からどう見られているのかを意識し始めた。りする微妙な年頃です。異性を意識して自分のいいところを探したり、桜の美しさに触れて心を揺さぶられたりする少年の感受性を丁寧に描いた絵本です。

(紹介文光村教育図書/矢祭もったいない図書館)